

# III 社内外の評価及びご意見

## 1. 第14回 九州電力環境顧問会

2014年12月8日に「第14回九州電力環境顧問会」を開催し、当社の環境への取組みについて、様々なご意見をいただきました。環境顧問会での主なご意見とその対応方針についてご紹介します。

### 九州電力環境顧問会委員 (50音順、敬称略)



あさの なおひと  
浅野 直人  
福岡大学法科大学院特任教授、  
中央環境審議会委員



おおつか まさお  
大塚 政雄  
環境省環境カウンセラー  
(市民部門)



かど ひさよし  
門 久義  
鹿児島大学名誉教授



つつい やすひこ  
筒井 泰彦  
エッセイスト



つる た さとし  
鶴田 暁  
九州地域環境・  
リサイクル産業交流プラザ会長



なが た こ  
詠田 トキ子  
NPO法人  
みやざきエコの会理事長



にしだ しんいち  
西田 進一  
西田鉄工株式会社  
相談役



のむら みきお  
野村 美紀生  
株式会社TNC放送会館  
代表取締役社長



はやせ たかし  
早瀬 隆司  
長崎大学大学院 水産・環境  
科学総合研究科 研究科長



会議風景

(注) 詠田委員は都合により欠席されたため、別途ご意見をいただきました(顔写真は第13回(2013年11月)のものを使用)。ご所属は2014年12月時点で記載しています。  
なお、筒井委員、西田委員、野村委員は、2015年3月31日をもって九州電力環境顧問会委員をご退任されています。

### [ご意見の概要と対応方針]

主な意見	今後の対応方針
<p><b>【原子力発電への理解活動】</b></p> <p>○原子力発電所の停止により、火力発電が定期補修もできずに稼働を続けている中、何とか電気を供給できていることを率直に伝えていくべきではないか。</p> <p>○原子力発電所の停止に伴う火力発電の増加により、CO<sub>2</sub>排出量の増加や地球環境問題に影響を与えていることを積極的に情報発信するとともに、日本には資源や低廉なエネルギーが少ないことなどを踏まえ、原子力発電の必要性を訴えていくことが重要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火力・水力発電所における補修停止時期の繰り延べ・調整や、週末・休日等を利用した臨時作業の実施によるトラブル停止の低減など、厳しい状況の中、電力の安定供給に向けて九電グループ一体となって取り組んでいることを、お客さまにご理解いただけるよう環境アクションレポートに記載しています (P12)。</li> <li>2012年度以降、5,000万トンを超えるCO<sub>2</sub>の排出が継続していますが、これは、原子力発電所の停止に伴う火力発電電力量の大幅な増加によるものであり、CO<sub>2</sub>排出量の大幅な削減には、原子力発電所の早期再稼働が必要不可欠である旨を環境アクションレポートにも記載しています (P12)。また、原子力発電は、エネルギーセキュリティの面からも必要性が高いことを、引き続き地域での環境活動の機会等を捉えて訴えていきます。</li> </ul>

用語集をご覧ください

>>地球環境問題

>>エネルギーセキュリティ

第14回九州電力環境顧問会	47
環境アクションレポートの読者アンケート	49
エコ・マザー活動における保護者アンケート	50
環境に関するお問い合わせ等への対応	50
社外評価	50

社外ステークホルダーのご意見

社外からの意見を積極的に  
取り入れることは重要である。

▶ P 47 第14回九州電力環境顧問会

主な意見	今後の対応方針
<p><b>【CO<sub>2</sub>排出抑制への取組み】</b></p> <p>○現在、国ではCO<sub>2</sub>排出抑制に資する「省エネ」に関する議論が行われている。省エネの取組みは家庭部門のみで推進することは困難であり、商品を販売する企業の役割が重要であるため、電力会社としても積極的にサポートしてもらいたい。</p> <p>○水素の活用や石炭ガス化発電など、技術は進歩しており、今後も進歩が続くと考える。九州電力としても、エネルギーや資源について多方面から検討した上で、環境に関する新しいビジネスを創出すれば、評価されるのではないかと考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各営業所では、ホームアドバイザーによる講座などを通じて、家庭部門での省エネを推進しており、環境アクションレポートでは、ホームアドバイザーの声として紹介しています（P18）。また、ホームページでも、家庭部門における省エネの取組みを紹介しています。</li> <li>燃料電池の研究・開発や、電力大での石炭ガス化発電の実証試験への参加など、これまでも技術開発に努めてきました。今後もCO<sub>2</sub>排出抑制や省エネ技術の向上に繋がる取組みを検討・実施していきます。</li> </ul>
<p><b>【地熱発電への理解活動について】</b></p> <p>○地熱発電への理解については、これまで同様に地元の方々に対して、粘り強く丁寧に説明することが必要と考える。また、単に安全性の説明のみならず、「地域振興」と結びつけて話をするのが効果的ではないかと考える。</p> <p>○地熱発電の温泉への影響については、先入観を無くすためにも、問題は発生していないことをデータや実績を踏まえて説明していくことが必要と考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地熱発電所では、地域に提供する温泉水の造成や園芸ハウス熱源として、余剰蒸気を活用しており、環境アクションレポートでも紹介しています（P3）。地域の皆さまへの理解活動にあたっては、地熱発電が産業・生活資源、観光資源であるということをご理解いただけるように努めていきます。</li> <li>発電設備の安全性はもとより、地熱発電の開発が温泉へ影響を及ぼすという先入観を取り除くためにも、そのような事例は発生していないという事実をしっかりと説明していきます。</li> </ul>
<p><b>【地域と連携した環境保全活動について】</b></p> <p>○環境保全活動については、他社との「差別化」ではなく、「連携」を図って取り組むべきであり、コーディネーターとして他社や自治体へ協力することが大事である。九州電力の個性を発揮できる取組内容であれば、一般の方々の関心も高くなると考える。</p> <p>○坊ガツル湿原における野焼き活動は、予め実施日を決めてイベント化してはどうか。広報に力を入れるとともに、旅行者との連携を図るなどの対応により、集客も見込めると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>坊ガツル湿原一帯の取組みは、従来から地域の方々との協働で取り組んでいます（P4）。今後も多様な協働先との連携を深めるとともに、九電らしさが伝わる取組内容を検討・実施していきます。</li> <li>美しい自然やその保護活動をより多くの方に知っていただくため、観光業界など地元関係先と連携し、事前の実施日を広く周知し、一般の方が参加・見学しやすい環境を整えていきます。</li> </ul>

中央給電指令所の見学会を開催しました。

2014年度は、会議と併せて、当社の事業活動へのご理解を深めていただくため、中央給電指令所をご視察いただき、太陽光をはじめとする再生可能エネルギーの導入量の増加が電力システムに及ぼす影響などについてご説明しました。



中央給電指令所見学会の様子

用語集をご覧ください

- >>ステークホルダー
- >>再生可能エネルギー
- >>ホームアドバイザー
- >>系統

## 2. 環境アクションレポートの読者アンケート

2014年6月に発行した「2014 九州電力環境アクションレポート」の読者アンケートを通じて、九州電力の環境活動のあり方などについて、500名の皆さまから貴重なご意見をいただきました(2015年3月末現在)。ご協力いただき誠にありがとうございました。

2014年度は、レポートのわかりやすさ、当社の環境への取組みに対する評価が、ともに2013年度より低い結果となりました。2015年度については、わかりやすく、親しみを感じていただける内容となるよう、「特集(P.3~P.4)」や社員の声で活動内容を紹介する「私の環境アクション(当社・グループ会社の社員など10名の声を掲載)」を新設するなど、構成の見直しを行いました。

### 九州電力の環境への取組みについて、ご関心を持たれた項目と、その理由やご意見

(n=500)

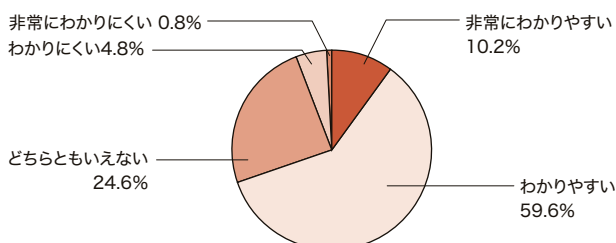
ご回答が多かった項目(上位5項目)	選択数			主な理由・ご意見
	最も関心あり	関心あり	合計	
1 安全の確保を前提とした原子力発電の活用	118	44	162	安全確保を前提とした原子力発電の活用 ・事故を防止する対策に興味があったため。 ・安全を感じることができないから。
2 再生可能エネルギーの積極的な開発・導入	103	112	215	再生可能エネルギーの積極的な開発・導入 ・九州の特性を活かした再エネ導入に賛成。 ・どのように導入しているか大変興味がある。
3 2014 環境アクションレポートハイライト	43	23	66	2014 環境アクションレポートハイライト ・全体の内容がコンパクトにまとまっている。 ・写真つきで分かりやすく、先を読む気になる
4 お客さまの節電・省エネにつながる取組み	40	89	129	お客さまの節電・省エネにつながる取組み ・様々な節電の工夫を知ることができたから。 ・お客さま目線を感じることができた。
5 原子力発電所の放射線管理	34	67	101	原子力発電所の放射線管理 ・内容には納得したが、安心はできない。 ・徹底して取り組んでもらいたいと思う。

(注)「最も関心あり」の選択数で順位付け。最も関心ありは1つ、関心ありは4つまで選択可能。

### [2014九州電力環境アクションレポート アンケート結果]

#### レポートのわかりやすさ

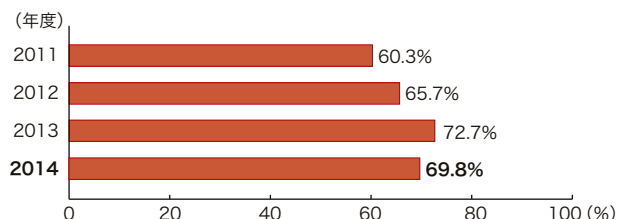
(n=500)



### [ご意見の経年変化]

#### レポートのわかりやすさ

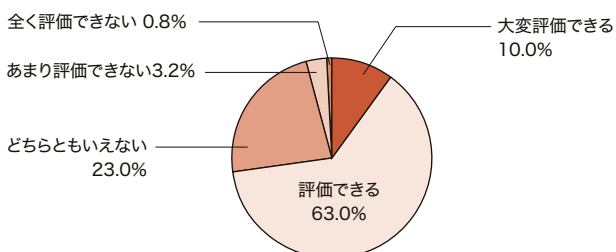
(n=500)



(注)「非常にわかりやすい」、「わかりやすい」の回答割合。

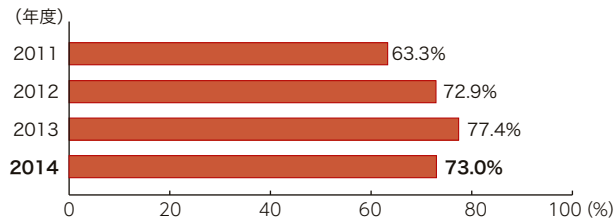
### 当社の環境への取組みに対する評価

(n=500)



### 当社の環境への取組みに対する評価

(n=500)



(注)「大変評価できる」、「評価できる」の回答割合。

用語集をご覧ください

- >>再生可能エネルギー
- >>放射線

どんなに小さな意見でも  
耳を傾ける姿勢が大事である。

▶ P 49 環境アクションレポートの読者アンケート

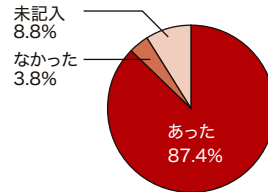
### 3. エコ・マザー活動における保護者アンケート

保護者の方々を対象に、エコ・マザー活動(P.32)や環境に関するアンケートを実施しています。

アンケートでいただいた貴重なご意見については、エコ・マザー活動をはじめ、当社の環境活動に活かしていきます。  
(配布数:11,481、回答数:3,535[回答率:30.8%])

#### 実施後の変化

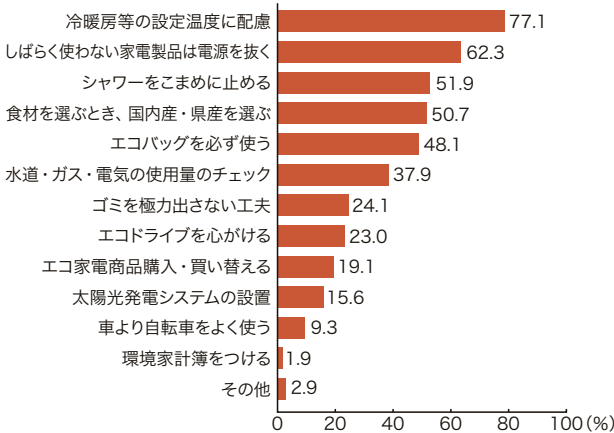
Q:エコ・マザー活動後に、お子さまに変化がありましたか



#### 環境への取組み

(複数回答可)

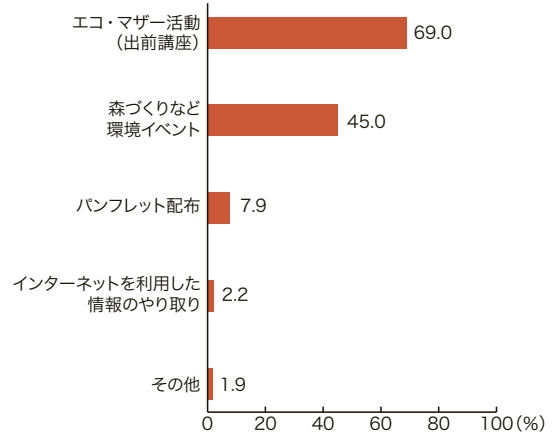
Q:今、ご家庭で行っている環境に配慮した暮らし方を挙げてください



#### 環境教育

(複数回答可)

Q:お子さまの環境教育充実のためには、どのような活動が効果的だと思いますか



### 4. 環境に関するお問い合わせ等への対応

環境に関する主なお問い合わせ内容と対応(2014年度)

項目	件数	主な内容	対応の概要
ご要望	3	がいのし 障子のリサイクルへの対応が可能な業者の紹介について	専門の会社をご案内し、併せて、当社のリサイクルに向けた処理方法についてご説明。
ご質問他	10	電気自動車の充電インフラ整備について	自治体が行う充電インフラに関する実証試験への技術面での協力はしているが、当社主体の整備計画はないことをご説明。
		環境会計の状況及び運用について	当社の環境会計の導入目的、経緯や運用状況についてご説明。
計	13	—	—

### 5. 社外評価

#### 社外評価

評価名	主催者	実施時期	九州電力の評価
第18回「企業の環境経営度」調査	日本経済新聞社	2014年9~11月	5位 / 13社(電力・ガス部門)

#### 社外表彰

表彰名	対象	実施団体	受賞年月
阿蘇・くじゅう国立公園指定80周年記念	環境省九州地方環境事務局長表彰	大分支社	2014年10月
エネルギー管理功績者	九州経済産業局長表彰	八丁原発電所所員	2015年2月
省エネ推進功労者	(一財)省エネルギーセンター九州支部長表彰	ふぜん 豊前発電所所員 かわら 川内発電所所員	

用語集をご覧ください

>>ステークホルダー  
>>エコドライブ

>>環境家計簿  
>>障子

>>環境会計  
>>電気自動車